

グリー、RPA 利用拡大に伴う運用課題を JP1 で解決 ～リスク軽減や生産性向上に大きく貢献～

株式会社アシスト(本社:東京都千代田区、URL:<https://www.ashisuto.co.jp/>、以下:アシスト)が提供する「JP1/Client Process Automation」(開発元:株式会社日立製作所、以下:JP1/CPA)を、グリー株式会社(本社:東京都港区、URL:<https://corp.gree.net/>、以下:グリー)が採用し、RPA ツールの利用拡大に伴う運用課題を解決しました。

※PRA:Robotic Process Automation

モバイルゲームのメーカーとして知られるだけでなく、メディア事業や広告事業、投資事業など幅広く展開しているグリーでは、会計・経理業務の自動化や、経費精算システム、稟議システムなど様々な社内システム間のデータ連携手段として、早くから RPA ツールを活用していました。しかし、利用が広がるにつれて以下の課題が顕在化しました。

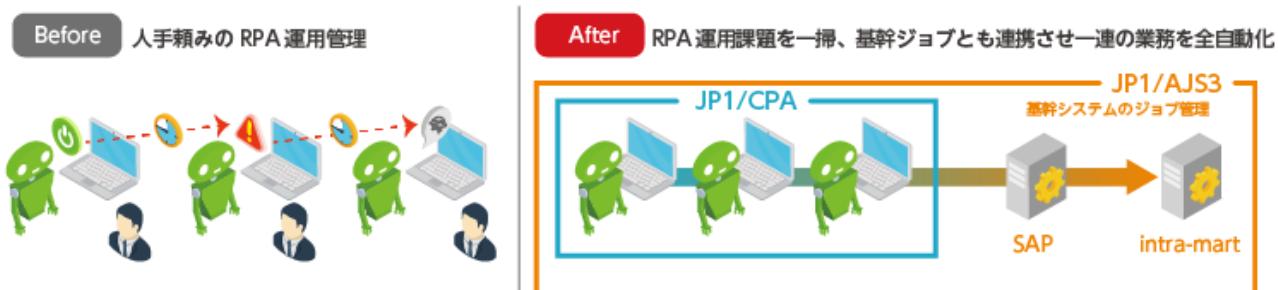
- 実行や稼働確認を一つ一つ人手で行うため、実行漏れやエラー検知が遅れるリスクがあった
- シナリオ間連携時のタイムロスや、RPA ツール実行完了を待っての手動業務など、作業効率が悪かった

グリーでは、人手を介さずに RPA ツールを運用管理する仕組みについて検討を開始し、アシストが提案する JP1/CPA を採用しました。JP1/CPA は、デスクトップ型 RPA ツールの実行・スケジューリングを行う製品で、RPA メーカーが提供する管理ツールと比較しても、コストを大きく抑制できます。さらに、代表的な RPA メーカー製品との動作・連携も検証済であるため、将来的に別の RPA ツールを導入しても同じ仕組みを使い続けられるといった点が、大きな決め手となりました。採用後、以下の効果が得られています。

- シナリオの実行やスケジューリング、エラー検知を自動化し、人手に起因する様々なリスクを解消できた
- シナリオ間のタイムロスが解消され、PC 数台で分担していた業務を 2 台に集約できた
- 夜間に RPA ツールの実行を完了させることで、出社後の業務時間帯を有効活用できた

さらに、長らく基幹システムのジョブ管理として利用している JP1/Automatic Job Management System 3(以下、JP1/AJS3)と JP1/CPA を組み合わせることで、部分的に自動化していた業務の全自動化、一元管理も実現しました。今後は、数分に 1 回という高頻度のデータ更新や複数シナリオの連携など、RPA の活用の幅を広げ、社内の業務効率化をさらに推進していく予定です。

システム概要図



▼本事例の詳細 URL:https://www.ashisuto.co.jp/case/industry/information/gree_jp1_2020.html

■「JP1/Client Process Automation」について

バックオフィス業務を自動化する製品「JP1/Client Process Automation」は、RPA ツールが行う業務を含め、PC で行う様々な定型業務の実行やスケジューリングを制御します。例えば、Windows への自動ログオンやシナリオの排他設定、きめ細かなスケジューリングによって RPA ツールの運用を効率化します。

URL:

<https://www.ashisuto.co.jp/product/category/system-management/jp1/>

■ニュースリリースに関するお問い合わせ

株式会社アシスト 広報担当:田口、土岐

TEL:03-5276-5850

URL:<https://www.ashisuto.co.jp/contact/press/>

■「JP1/Client Process Automation」に関するお問い合わせ

株式会社アシスト 東日本技術本部 システム基盤技術統括部 担当:飯塚、岡野

TEL:03-5276-5565

※ 記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

※ ニュースリリースに記載された製品／サービスの内容、価格、仕様、お問い合わせなどは、発表日現在のものであります。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。